

平成28年度
北海道教育大学
附属函館幼稚園だより
NO. 3 【号】
平成28年5月31日（月）



まなざしの共有の魅力

園長 橋本 忠和

6月は天候の崩れやすい季節ですが、24日には園児たち、そして保護者の皆さんも楽しみにされている“ちびっこ祭り”があります。きっと、各組の工夫を凝らした出店の前には、曇り空を吹き飛ばすような元気いっぱいの笑顔の太陽があふれることでしょう。

さらに、6月には5月に行けなかった「四季の杜」の園外保育、各クラスの園外保育（特別支援学校・路面電車倉庫・函館空港）があります。園児がワクワクして登園する様子が目に浮かぶようです。

さて、先日園内でとっても魅力的な場面に出会いました。それは、園児2名が絵本を読んでいる場面です（写真）。2人は、絵本の中にあるキャラクターを探し出し、それを指さし、気に入っている理由等を述べあっていました。また、ページの端に書いてある文字と絵の関係性を読み解こうとしていました。

この様子を見ていて園児が他者と同じ対象に「まなざしを共有」しあう「共同注意」という言葉が思いかびました。他者が対象物（絵本等）を使って行う動作を子どもが模倣しようとするとき、その子どもには共同注意能力が必要とされています。そして、発達に即して意図的な理解力が育まれてくると、その模倣行動は相手の行動の再現だけでなく、共にいる他者の思いや願い等を感じ取って模倣行動することができるそうです。

さらに、気づいたのはこの共同注意の中で行われていた「指さし」です。この「指さし（Pointing）」は、注意を向けている対象や方向を視覚的にはっきりと示す言語発達において強力な道具になると言われています¹⁾。

園児同士が共に過ごし「まなざしを共有」しあうことで言葉をはじめ他者理解など多くの学びの機会になっている「幼稚園」は素晴らしい場所と思うと共に、その場のきっかけとなった「絵本」の魅力が再認識できました。



註 1) 清水益治・森敏昭『0歳から12歳児の発達と学び 保幼小の連携と接続に向けて』北大路書房、2013年